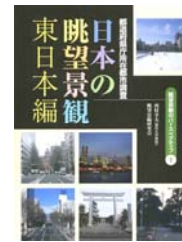
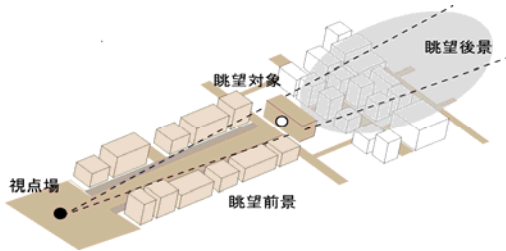


研究室挙げて都道府県庁所在地都市の先駆的景観調査

通し景・絞り景・展き景のビュー・サーヴェイ

最近の都市デザイン室プロジェクトの圧巻は、議員会館建て替えによる眺望破壊の危機について、2002年8月からの実測シミュレーションによる問題提起と、2004年1~3月の全都道府県庁所在地眺望景観調査およびそれに基づく眺望景観保全プログラムの対外提案活動だった。ここでは後者の成果を紹介する。



『季刊まちづくり』3号

- ・『季刊まちづくり』(学芸出版社)1号(03年12月)~4号(04年9月)に「眺望景観のパースペクティブ」として発表。
- ・野原卓ほか「我が国の都道府県庁舎における眺望景観の現状 都市における眺望景観の保全に関する研究その4」日本建築学会大会学術講演梗概集、04年8月。
- ・岡村祐・野原卓・中島直人・鳥海基樹「我が国における眺望景観保全プログラムの提案—47 都道府県庁所在地都市における眺望景観調査に基づいて—」建築学会総合論文誌『景観デザインのフロンティア』05年3月。同論文の結論において、次の3点が明確になったと明記された。

①何を(=調査対象)を何処から(=視点場)から見るかという構造上の整理によって、市街地に埋め込まれた少しでも多くの眺望景観を収集する方法が明確になった。

②収集された眺望景観のうち、規格外対象を視点場と眺望対象に対するいくつかの評価軸から選別する技法が明確になった。

③特殊な形態になる眺望景観規制に関し、その構造の類型化から主要な規制領域を確定した上で基準を示し、それを市民に提示する技法が明確になった。

④これまで断片的な議論しかなされてこなかった眺望景観の保全と創造に関し、コレクション・セレクション・アクションの3段階の考究を施すことで、その明確化のための特殊で固有、それでいて包括的な理論を明確にした。



八尾プロジェクト始動、曳山祭調査

今年度はフィールドを旧町へと広げる富山県八尾プロジェクト。5月3日に開催された曳山祭を岡村D2、田辺M2、江口M1らが見学・調査した。勇猛果敢に急展開を行う「かどまわし」や装いを一転した幻想的な「提灯やま」など祭文化を堪能した。

参考：倉橋宏典*修論「北陸の曳山祭における祭と都市空間の関係性に関する研究—曳山の動きと都市空間の対応関係に着目して—」*今春社会人になりました。

BESETO研究会、日中韓ワークショップに参加

COEプロジェクトの一つ BESETO 研究会[北京・ソウル・東京歴史的資産保全活用政策比較研究]の一員として西村教授、中島助手、岡村 D2 が4月19日北京でのワークショップに参加した。抗日デモによる治安悪化が不安視されるなか、「都市のアイデンティティとは何か？」などに関して中韓両国と議論を交わした。

この北京での発表後、いつのまにか報告書締め切りが迫り、M1、4年生がバイトで頑張っている。5月終盤は修羅場である。



熱心な日中韓討議

部活・サークル・グループ活動ぞくぞく名乗り

青春を謳歌する会 (通称オレンジの会) 会長の野原助手の部活動計画画アピールが話題を呼んでいます。青春を謳歌したい人は一緒にやが。「都市デザイン研究部」:月に1つ程度、現代の都市デザインの空間的な要素をとりだして調査・資料収集・お勉強・見学・提案までしちやいながら都市のミライについて考えちゃう部活。「コンペ部」;目標はコンペ最優秀獲得。財源は賞金のほら。

読書会めいたこと 題して「書を捨てるな、街へも出るけれど」をやりませんか? ●「これは使える」的なことをあまり考えない●原文で読む●週1~月2、精読→発表→討論→四方山話。近代都市計画の「バイブル」を読んでみる、都市文学に耽溺する~地図を眺めながら~などなど。(坂内良明)

善福寺池愛情協会 中島助手は10歳まで杉並区善福寺で過ごし、善福寺というまちを人一倍愛しています。先日江口久美 M1 の実家が中島助手の生家のあった場所から直線距離にして100mもない近所と判明。江口もなかなかの善福寺池愛好家。さっそく善福寺池愛情協会を結成。主な活動はピクニックなど。



魅力 秘書の仙道(せんどう) 美美江さんは、舞台女優です。「40CARAT」という劇団員であることは、知る人ぞ知る研究室の魅力。2月の14回公演「月光」には、研究室から応援観劇にいきました。シェイクスピア「リア王」翻案劇で熱演でした。次の公演は12月。

『景観法を活かす』中島助手と窪田OGほか共著 『どこでもできる景観まちづくり 景観法を活かす』(学芸出版社、04年)の「シンボルとしてのヴィスタ景を育てる—山形市文翔館周辺地区」および「景観まちづくりの主体—誰が景観まちづくりを担っていくか?」中島直人助手、「景観まちづくりの意義と課題」窪田亜矢工学院大学助教授(OG)執筆。

白川郷合掌文化館守っています



雪に埋もれた風景

財団法人日本ナショナルトラストで担当するプロパティの1つに白川村荻町の「白川郷合掌文化館」があり、現在、地元と協働した建物の保存・活用手法と管理運営体制の仕組みづくりをしています。今後は1棟ずつの保存だけでなく世界遺産としての荻町のあり方を議論する必要性を感じています。(OG 池田聖子)

★東日本橋あるき 千葉大との2研究室で東日本橋まちあるきをしました。旧名は矢の倉で江戸の大川からの水場・荷集積地。震災復興千代田小だった現日本橋中、柳橋や神田川沿いの舟宿や老舗の風景、近代建築、細路など非常に濃いコミュニティで、両国橋たもとの「プチ広場」(写真)が印象的。



20分で日本橋三越。神田明神のお祭り直前で産業会館駐車場に御輿が組み立てられ、各店が提灯をつるしたり、まちがお祭りにつながっていることがよくわかりました。(窪田亜矢)

編集後記 「素晴らしい『都市デザイン研マガジン』発行おめでとうございます。多くの人に伝えられる独自の媒体として大活躍するのでは?先輩方が関わるニュースを知ることができうれしい」という先輩メールに励まされています。誌面は読みやすい「3行記事」(約150字)構造を基本にしています。しかし、字数が多少増減しても随時ご寄稿ください。内容は自由、画像つき歓迎。研究室に新聞係りが新設され、坂内(ばんない)良明 M1 が担当です。(酒井)